

# ミカドONLINE

ミカド電装の情報サイト  
ミカドONLINEはこちらから



新年あけましておめでとうございます  
本年もミカド電装商事株式会社とミカドONLINEをどうぞよろしくお願ひいたします

おせんべいの  
香りがする!!

## 郵便局の有料レジ袋は お米が原料のプラスチック製

### おせんべいの香りがするレジ袋!?

郵便局の有料レジ袋の匂いを嗅いだことがありますか?手に取って嗅いでみるとほんのりとおせんべいの香りがします。手触りもサラサラと自然なぬもりが感じられる少し不思議な素材です。実はこのレジ袋のプラスチックにはお米が3割使われているんです。



仙台市内の郵便局にて(編集部撮影)

### 市場に出せない廃棄米を有効活用

このお米由来のプラスチック「ライスレジン」をつくっているのは新潟県のバイオマスレジン南魚沼という会社です。社名を拝見すると魚沼産の高級米が使われているような印象を持ちますが、決してそうではなく、この「ライスレジン」には食用に適さない古米や米菓メーカーから発生する破碎米など、飼料にもまわせず廃棄されるお米が使われています。また、ロスになった食糧米以外にも、台風などの水害で浸水してしまった出荷前の米や、日本酒の醸造過程で削られる精米時の米粉なども利用しているとのこと。

米どころである新潟は、日本酒や米菓などのメーカーが多数あり、その分、製造工程で発生するお米のロスも多いため、そういった非食用米を活用してお米のプラスチック「ライスレジン」がつけられています。



私どもは「非食用米」を原料としたバイオマスプラスチック樹脂「ライスレジン」の製造を主な生業としています

ライスレジン(バイオマスレジン南魚沼YouTubeより)

### 時代が事業に追いついた

バイオマスレジン南魚沼を設立(2017年)したのは、食品商社出身の神谷雄仁(かずひと)氏です。神谷氏は今から16年前、まだパリ協定もSDGsもなかった時代に米国を訪れ、植物由来の生分解性プラスチックの存在を知りました。そして世界的な競争戦になっているトウモロコシやサトウキビではなく、海外に頼る必要がない国産のお米でプラスチックをつくらうと考え、2005年に前身となる会社をつくり商品化に着手しました。

当時は事業に対して周囲の理解が得られず大変な苦労をされたようです。しかし10数年経った今では世の中の考え方が変わり、ようやく時代が事業に追いつきました。現在、同社のお米のプラスチックは地元のゴミ袋に採用されたり、サステナブルな素材として社員食堂のスプーンや箸にも使われています。

郵便局で有料レジ袋が必要になるケースはあまりないと思いますが、機会があればぜひ手に取って匂いを嗅いでみてください。ちなみに最近では福島県浪江町でも同社のライスレジンの原料となる資源米がつけられているそうです。

「エネマネ新技術」コーナーより抜粋  
その他の記事はこちら▶



「雑学・小ネタや  
当社の話題を  
編集部が  
ピックアップ!!」

# ミカドアラカルト



## 実際の「1反」の面積はこれぐらいです

農家やご年配の方と話をしていると、田んぼの面積を表す単位として、1町(ちょう)1反(たん)という古い日本の単位がよく出てきます。ですが、田畑になじみがないとどれぐらいの面積を指すのか、すぐにピンと来ませんよね。

1反というのは正方形にするとだいたい31.5m×31.5mの面積です。そこでGoogleマップの縮尺を当てはめて当社の面積と比較してみたのが右の図です。これを見ると赤い枠線が敷地から少しはみ出しているため、当社の敷地は1反には少しだけ足りないという感じでしょうか。

1反は約10a(アール。1aは100平方メートル=10m×10m)なので10m四方の土地が約10個入る面積の広さと捉えるとイメージしやすいかもしれません。そして1町はその10倍の広さ(10反)ということになります。

反、町などの単位は、大化改新(西暦645年)のときに中国の度量衡体系(尺斤法)を日本が取り入れたものです。中国に「反」という単位はないのですが、一説では当時の中国で長さの単位に使われていた「端」が、何らかの形で変化したのではないかとされています。ちなみに面積を表すときに1町歩(ちょうぶ)、1反歩(たんぶ)と「歩(ぶ)」を付けた呼び方をすることがありますが、これはその単位四方の土地という意味だそうです。



1反の面積はこれぐらい

「単位の歴史」他の記事はこちら▶



### ミカド電装商事のグループ会社 ソシオス・イー・パートナーズ(株)の 社会人向け『Python・AI入門講座』



齋藤教室長

ソシオス・イー・パートナーズ(株)では、「生涯学習としてのプログラミング」をモットーに、社会人対象のプログラミング講座を開講しています。

中でも人気の『Python(パイソン)・AI入門講座』は、プログラミングの基礎学習として、初歩からプログラミングの全体像を学べる講座です。

開講以来、多方面の業種や幅広い年齢層の方から累計30名以上が受講し、皆様から大きな反響を頂いている当講座は、プログラミングに興味をお持ちでありながら、学習をうまく進めることができなかった方にとって大変メリットのある内容となっております。

講師は、プロスタキッズ仙台五橋校・教室長の齋藤が担当し、受講後は、ご自身の目的に合ったプログラミングの学習計画を自力で立てることができるようになります。

※詳細に関してはQRコードのチラシ(PDF)からご確認ください。

お申込み・お問い合わせは

022-216-4250



### 「Zoff x スヌーピー」のコラボメガネ ミカド電装商事(株)営業部 Yさん

いま一番のお気に入りには、メガネショップのZoffで購入したスヌーピーのコラボメガネです。



去年の第一弾のときに一本買って、今年の第二弾でも一本買いました。メガネのフレームやパーツにスヌーピーのモチーフが施されており見分かりやすいのですが、スヌーピーは中学生の頃から大好きなので、デザインに一目惚れして買っちゃいました!

当社では昨年の10月から女性スタッフのオフィスカジュアルがOKになったこともあり、いつもと雰囲気を変えて気分を上げたいときにメガネを選んでかけています。これまで年齢不相応な気がしてスヌーピーが好きなことを黙っていましたが、それを知った同部署のTさんに「好きなら貫き通せ」と言われてからは堂々と公言できるようになりました(笑)

エースユナイテッドはミカド電装商事の持ち株会社です。当レターマガジンの編集部やミカド電装商事(株)のほか、プログラミングスクール「プロスタキッズ」を運営するソシオス・イー・パートナーズ(株)がグループ会社です。



# カド電装 マイヒストリー⑦

History with Mikado Denso

診断事業はお客様の課題を解決する  
やりがいのある仕事

ミカド電装商事株式会社  
取締役 環境・エネルギー本部長 表 伸也  
(インタビュー ミカドONLINE編集部)

ミカド電装商事の歴史とエピソードを社員の目線で語っていただく「ミカド電装マイヒストリー」のシリーズです。第7回は表伸也取締役環境・エネルギー本部長に診断事業に関してお話を伺いました。

## 大手通信社から ミカド電装商事へ

—— 東京で働いていらっしやうと伺いましたが？

表 はい、渋谷のKDDIで働いているときに、スカウトのような方が来られて、仙台でUPS(無停電源装置)やCVCF(定電圧定周波数装置)に詳しいリーダー的な人材を探しているというお話をいた

だいたのが入社の子っかけです。

私は仙台電波高専を卒業したあと福島放送局に勤め、その後通信会社に移りましたが、仙台を離れて随分経つことから、そろそろ地元に戻りたいと考えていました。最初から工務部の部長として迎えていただいたので、ミカド電装商事に入社してからは、工事の手配や営業部との調整、そして技術的な打ち合わせが必要になったときには、メーカーの担当者と話し合ったり電力会社さんなどにも対応をしてきました。

—— 現在は環境・エネルギー本部長としてどういったお仕事を？

表 それまでの環境・エネルギー部は太陽光発電を扱う部門として沢田満

部長が担当していたのですが、コンサル会社からの助言もあり、私が環境エネルギーコンサルタント事業を始めることになったんです。

そこで沢田満部長と担当を交換して、4年前から正式に今のポジションになりました。

最初はセミナーを開いたり営業に行くなどしていましたが、2016年よりCO2削減ポテンシャル診断推進事業(環境省)の診断機関に採択されたため、そこから段々診断事業が増えてきました。

社会的にも環境への意識やニーズが高まってきたことから、武蔵野大学で環境マネジメントを学び、一昨年、修士課程を修了しました。

## 専門知識と豊富な 現場経験が診断事業に 活かされています

—— 診断事業を具体的に説明していただけますか？

表 お客様の設備を調査して、どこをどう改めたらどのぐらいCO2の削減や省エネが達成できるのかをご提案するのが診断事業の柱です。

ミカド電装商事にすべて一括で依頼できるのはお客様にとってもご負担の軽減につながるのではないのでしょうか。

—— 表本部長はずっと技術担当というイメージでした。申請業務はまったく新しい分野だったのでは？

表 いえ、私は元々が無線の出身です。そこで電波法を読んだり、電気主任技術者として電気事業法の知識が必要だったり、法律に関する手続きは過去にも一杯やって来たんです。なので書類の作成などは慣れていましたし、基本は一緒ですからね。

それよりも、設備の古さを気にしながら予算的に更新を我慢していたお客様が、補助金を得て工事が一気に進み「長年の不安が消えました」と言ってくくださるなど、本当に喜ばれることが多いです。

これまでは機械だけを相手にしてきましたが、今はお客様と直接対応して様々なエネルギーの悩みを聞くことができます。

環境・エネルギー部の仕事は多くのお客様の課題を解決するやりがいのある仕事だと思っています。

(聞き手ミカドONLINE編集部)



表 伸也 おもてしんや  
ミカド電装商事株式会社 取締役 環境・エネルギー本部長  
1967年(昭和42年)生まれ 2010年(平成22年)入社  
武蔵野大学大学院卒



けれど空調や照明しか見ていないようではダメで、ポイラーから排水設備から、インバーター化された装置とかコンプレッサーとか。あとは冷凍庫や冷蔵庫を見ることもあります。それに太陽光発電が設置できるかどうかの判断なども加えながら全体を総合的に見ていきます。

—— お客様からの信頼も厚いと伺いました。

表 やはりお客様から信頼されな

いとうまくいかないです。元々の知識に加えて診断事業を通じて様々なアウトプットをすることが自分にとっては大変勉強になります。結局、空調屋さんは空調だけ、照明屋さんは照明だけを扱うことが多い中で、私どもは設備のすべてを見て「ここはこうなります、ここはこうなります」と全体的な診断をしていくので、(あくまでも診断上の数字ですが)場合によってはその工場のエネルギー使用量の40%を削減できるご提案が可能なきもありません。

特定の一部の設備だけを更新する

るのではないのでその分費用はかかりますが、削減できるエネルギーが大きいため、当社のご提案を受け入れて結果的に工事までご依頼いただくケースが多いです。私どもはすべての業者と繋がっているの、どんな工事でも可能ですし、そこが強みだと思っています。

また、環境・エネルギー部では補助金申請のお手伝いもしていますが、ご存じない方が多いのでそれをお話すると「ではそちらも一緒にやっていただけませんか?」とよく言われます。